



コスモスだより

【ニューストピックス】

—切れ目ない医療・介護支援を提供するために—

『入退院支援センター』 設立に向けて



Hospitalization
support center

【お知らせ】

4月から新体制でスタート

【ニューストピックス】

第66回 市立貝塚病院 市民公開講座のご案内

Ⅱ地域連携ニュースⅡ

第8回 こすもす懇話会のご案内

第12回泉州地域医療フォーラムのご案内

平成29年度 紹介件数のご報告

『なすびんネット』接続方式の変更で使いやすく！
地域医療連携体制について

病院の理念 基本方針

地域住民を守る良質な医療の提供

1. 医療を通じ患者さんの喜びが自らの喜びになるような職業人をめざします。
2. 常に技術の研鑽に努め、高度な医療の提供により、病気の早期発見・治療の充実をめざします。
3. 患者さんの治療には、各々の職務を結集したチーム医療をめざします。
4. 地域の医療機関と連携を密にし、信頼される中核病院として急性期医療をめざします。

『入退院支援センター』 —切れ目ない医療・介護支援を 提供するために— 設立に向けて

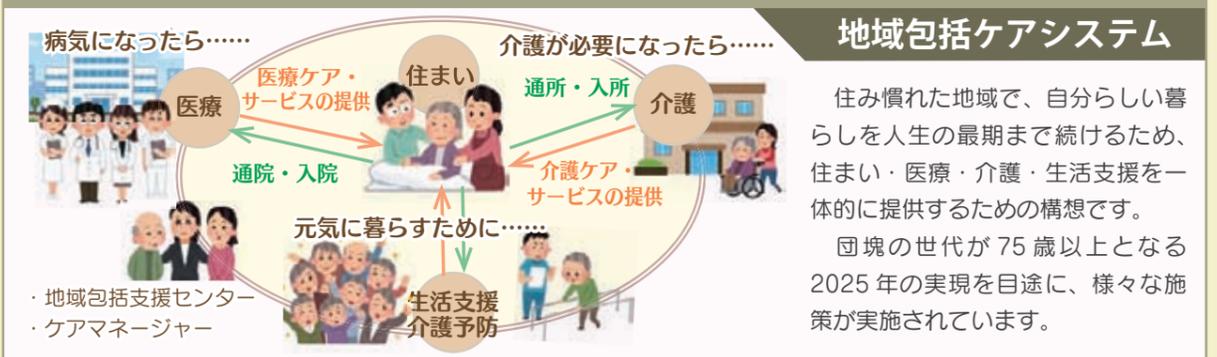


入退院支援センター長
看護局 参与
能口 百合子

超高齢社会に向けて、【地域包括ケアシステム】の円滑な実動が急がれています。そのために重要なのは、医療・介護サービスが連携をはかり、それぞれの役割を果たしながら、切れ目のない医療・介護を提供することです。

当院では、患者さんと医療施設・介護施設やサービスとの連携や支援体制を強化するため、『入退院支援センター』の取り組みをスタートしました。『入退院支援センター』には、従来の「地域医療連携室」に加えて「入退院（在宅）支援室」を設置。この両輪で、入院前から退院後の外来・在宅療養まで、切れ目ない医療・介護を提供するための支援を行います。

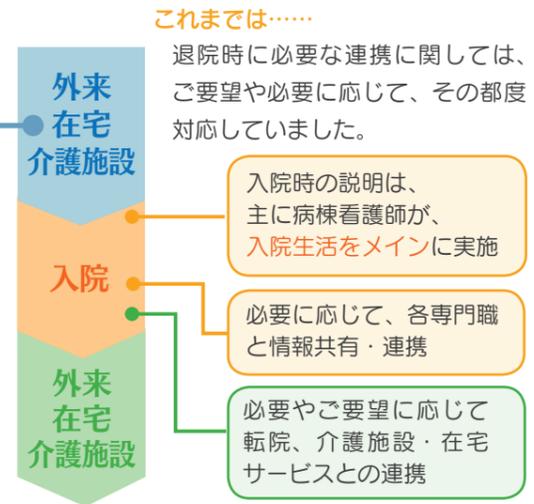
4月から、まずは婦人科の一部で入院予定患者さんを対象に「入院前面談」を実施。今後は、患者さんやご家族のご意見を伺いながら、対象の診療科を広げ、より充実した支援を実施していきたいと考えています。



入院前面談 — 早期の説明と情報の取得

「入退院支援センター」として新たに実施するのが、入院される患者さんとの「入院前面談」です。患者さんの状況や問題を早期に把握するため、確認やヒアリングを行っていきます。

- NEW**
- 入退院支援センター『入院前面談』の内容
- 入院前の介護・医療サービス利用状況の確認
 - 身体的・社会的・心理的状态の確認
 - 入院生活に関する説明
 - 入院中に行われる治療・検査の説明
 - 持参薬の確認
 - 栄養状態の評価
 - 退院困難な要因の有無の評価 など



■ 安心して入院生活をスタート！！

■ 入院予定の患者さんやご家族が、入院生活や治療過程をイメージできるように

患者さんご本人だけでなく、ご家族にとっても多くの不安がある入院。入院生活や治療について、入院前にしっかりと説明を聞いてイメージすることで、心構えを持ち、安心して入院生活に入っていただけます。

また、入院前の外来・在宅・介護施設 → 入院中 → 退院後の外来・在宅・介護施設まで切れ目ない支援を実施するため、患者さんの状況を多方面から確認させていただきます。これらは、病院スタッフにとって欠かせない情報収集であることはもちろん、患者さんやご家族にとっても、入院から退院後を考えるための重要な指針となります。「目の前の治療と生活で手一杯で、そんなことちゃんと考えてなかった……」と慌てることなく、退院後どう暮らすかを考えていただくことができます。



■ 入院前から、退院を見据えた多職種協働の支援体制を作る

■ 入院生活を暮らしの延長とするために、入院前の状況を早期に把握し共有する

これまでの病院完結型医療ではなく、医療・介護・生活支援の施設・サービスがそれぞれの役割を担い、地域全体でご高齢の方をサポートしていくのが、地域包括ケアシステムの考え方です。日常のかかりつけ医や集中的な医療ケアが必要な方の治療を行う急性期病院など、同じ医療機関でも細分化された役割があります。同様に、介護施設やサービスにも多くの種類と役割があります。

一人の方が、複数の医療や介護サービスを受けながら生活している中、安心・安全に入院生活を送っていただくためには、どんなサービスをどのように受けているかを把握することがとても重要です。

例えば、複数の医療機関から薬の処方を受けている場合、それらを全て把握し、入院中も継続的な服薬が必要です。また、入院中に服薬中止や種類変更・追加になる場合もあります。過去の副作用の



情報も欠かせません。ジェネリック薬も多くなっており、それらを管理・指導する薬剤師は大きな役割を担っています。

また、入院前面談で把握した患者さんの身体的・社会的・心理的状态は、入院される病棟の看護師に引き継がれます。制約の多い入院生活の中でも、少しでも快適に、そして、効果的治療でより早く日常の暮らしに戻っていただくにはどうすれば良いかを考えるためです。



■ 患者・家族の不安や予測される問題に対し、多職種による早期支援を

入院前面談により、どんな問題や困難が発生するかを予測できるようになります。事前に予測することで、その問題をどのように解決するのか、医師や看護師だけでなく、薬剤師・栄養士・メディカルソーシャルワーカーなども含め、退院後も視野に入れた多職種による早期の支援が可能になるのです。

また、「がん相談支援センター」や「医療福祉相談」「各種医療相談」や認定看護師など各関連・専門部署への相談へ引き継ぎ、必要なサポートが受けられるよう連携していきます。



4月から新体制でスタート

院長就任のご挨拶

市民の皆様へ寄り添う病院であるために



院長 今本 治彦

本年4月より吉原治正先生の後任として、院長に就任いたしました。

私は、内視鏡外科手術（腹腔鏡手術）を専門にしています。前任地では、食道・胃疾患（胃がんや粘膜下腫瘍）などを中心に、多くの症例を行ってまいりました。内視鏡外科手術は、体に優しい手術と言われています。当院においても、大腸がん、胃がん、肝がん、子宮がんなどの悪性疾患に加え、子宮筋腫、卵巣腫瘍や胆石、鼠経ヘルニアなど多岐にわたって腹腔鏡手術を行っています。もともと病気を持たれている方やお体の弱い方にも、安心して

質の高い手術を受けていただけるよう、当院においても益々努力していきたいと考えています。

また、当院では、4月より入退院支援センターを設立いたしました。これは、入院生活や治療に対する不安を少しでも解消し、安心して入院生活を送れるように支援するのが目的です。また、患者さんが退院後も安心して療養生活ができるように、かかりつけの先生やリハビリ、在宅など地域の医療機関とも連携を取り、入院中はもちろん、退院後の生活や一貫した支援を提供できるように整えてまいります。

日本は超高齢社会を迎えています。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるには、地域で急性期から回復期、慢性期そして在宅までの医療を切れ目なく、安心して受けられることが必要です。地域医療のなかで、当院の役割は手術、検査などの急性期診療であり、当院だけでは医療は完結しません。地域医療を担う病院として、地域の先生方と協力してその役割を果たしていきたいと考えています。また、前述しました、より体に優しい低侵襲手術や治療を安全に提供したいと考えています。

当院においては、より質の高い高度な医療が提供できるように、医師の充たや高度医療機器の導入などを進めています。当院単独であらゆる医療を提供できるわけではありませんが、「市民の皆様へ寄り添う病院」として、まず当院を受診していただき、一人ひとりの患者さんに一番良いことは何かを一緒に考え、紹介も含めて最適な治療を提供したいと考えています。

当院は一貫して「地域住民を守る良質な医療の提供」を理念に掲げてまいりました。今後とも「地域の皆様へ愛され支援される病院」さらに「職員一同、誇りを持って働きがいのある病院」をめざして、チーム医療を通じて安全で良質な医療を提供し、患者さんとそのご家族にご満足いただけるようスタッフ一同全力を尽くしていく所存です。引き続き地域の皆様のご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

看護局長就任のご挨拶

超高齢社会に向けて求められるもの



看護局長・入退院支援センター参与 西野 万寿子

平成30年で創立79年を迎える市立貝塚病院は、地域に根差した公立病院として急性期医療を担っています。看護局では、患者さまに寄り添い「心かよわす癒しの看護」を理念として、人としての尊厳と権利を尊重し、患者さまとご家族の満足向上のために信頼される看護の提供を目指しています。

団塊の世代が後期高齢者になる2025年には超高齢社会へ突入し、国は医療・介護・福祉サービスの連携により、これまでの病院完結型医療から地域完結型医療へパラダイムシフトしようとしています。これは、慢性疾患を持って生きる人・難病や障害を抱えて生きる人・複数の疾患に加えて加齢による機能低下も加わって自立した生活を営むことが難しい高齢者が、日常の生活圏内で必要な時にサービスを受けながら、その人が望む人生の実現と、人生の最期まで尊厳ある生を生きることを目的とした「支える医療」への転換です。この転換期において、私たち医療者には、暮らしの場で在宅医療やサポートを受けながら療養している人が、何らかの理由で入院になった場合、病院で必要な医療や看護・リハビリテーションを提供された後、在宅支援を担う関係機関にスムーズに移行し、患者本人が暮らしを取り戻していけるように支援することが求められています。それは、入院医療そのものが、人生や暮らしを遮断しないということだと考えます。

当院においても、入退院支援センターを設置し、本格運用に向けて体制を整えつつあります。病院での看護についても原点に戻り、生活と医療を統合する継続看護の充実と、患者本人の持てる力を発揮できるよう支援を行い、関係機関との連携を強化していきたいと考えています。

私は、平成28年に市立貝塚病院に着任し、地域医療連携室長 兼 看護局副局長として泉州医療圏での地域連携を推進してまいりました。地域の医療機関や地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護施設などの関係機関との連携により、地域包括ケアシステムを構築し、地域にとって必要とされる病院となるよう、職員一丸となって邁進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

新任部長



特任内科部長 谷尾 吉郎

＜専門領域＞呼吸器内科

車で北に1時間、住吉大社の東側にある、大阪急性期・総合医療センターから来ました。

当院の病床数はその約1/3ですが、初めて来た時に驚いたの

は、エントランスの立派な絵画の数々とエスカレーターです。山椒は小粒でもピリリと辛い、という言葉がありますが、小さくても地域の人達にとっては無くてはならない重要な健康管理の拠点であると認識しました。

前任地では主に初期研修医の教育係を担当してきました。時間外救急診療をはじめ若い先生たちと一緒に勉強させてもらったことが、今懐かしく思い出されます。「一に努力二に努力、努力は天才に勝る」をモットーに患者さんのための医療を心がけて来ました。

呼吸器内科専門医として肺がん、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎、細菌性肺炎等の感染症、サルコイドーシス等の難病、その他一般内科疾患を鑑別いたします。専門は肺がん診療で、がん免疫療法や放射線療法の普及に力を注ぎたいと思っています。

新任部長



小児科部長 森口 直彦

＜専門領域＞小児感染免疫学

本年4月に市立貝塚病院に赴任しました。前任の病院（近畿大学医学部堺病院）では、小児の感染性疾患、先天性免疫不全症、膠原病などの診療を担当。さらに、病院内での耐性菌対策、アウトブレイク対策など院内感染対策チームの一員としても活動していました。

小児医療については、近年さらにワクチンが進歩し、定期ワクチンの拡大によって、感染症を中心とした急性疾患・重症疾患が減少してきました。一方、少子化の進行の中、小児医療・教育を含めた子どもの育成の重要性が増してきています。私も専門分野だけでなく、小児医療全般で地域の先生方と連携をとって、子どもの育成に貢献できればと考えています。

趣味は登山・ハイキングで、年に数回、比較的初心者向けの山を登っています。どうぞよろしくお願いたします。

略歴

- 昭和56年 3月 鳥取大学医学部 卒業
- 昭和56年 7月 国立大阪病院 外科研修
- 昭和58年 7月 大阪大学医学部附属病院 第二外科医員
- 昭和62年 3月 三世会河内総合病院 外科医長
- 平成1年 7月 市立貝塚病院 外科医長
- 平成3年 7月 労働福祉事業団関西労災病院 外科部長
- 平成14年 1月 近畿大学医学部 外科講師
- 平成17年 7月 近畿大学医学部 外科学講座 助教授
- 平成24年 4月 同上 内視鏡外科部門 教授
- 平成27年 4月 近畿大学医学部附属病院 低侵襲外科センター長 兼務
- 平成30年 4月 市立貝塚病院 院長

学位

- 平成6年 1月 大阪大学 医学博士取得

profile

専門領域

消化器外科、内視鏡外科手術、上部消化管疾患

学会

- 日本外科学会 専門医、指導医
- 日本消化器外科学会 専門医、指導医
- 日本内視鏡外科学会 技術認定医、評議員、メディカルチーム検討委員
- 日本消化器内視鏡学会 専門医、指導医
- 日本臨床外科学会 評議員
- 日本外科系連合学会 評議員、Fellow 会員
- 日本食道学会 認定医、評議員
- 日本胃癌学会 評議員
- 日本クリニカルパス学会 評議員
- 日本医療マネジメント学会 評議員 他多数

地域連携 ニュース

【申込・お問い合わせ】 地域医療連携室 ☎ 072-422-5865

■ 第8回こすもす懇話会のご案内

当院では、地域の医療環境の充実をめざし、市立貝塚病院と貝塚市医師会・歯科医師会・薬剤師会の先生方をはじめ、近隣地域の医療機関の方々と交流を深める機会として「こすもす懇話会」を毎年開催しています。講演の後に情報交換会も行いますので、是非ご参加ください。

【日時】6月16日(土) 15:00～17:00 【場所】コスモシアター中ホール

【内容】一般講演：**症例検討3例**（整形外科／泌尿器科／産婦人科）

特別講演：**「内視鏡外科の現状と未来」**

＜演者＞市立貝塚病院 院長 今本 治彦先生

平成 30 年
6月16日
(土)

生涯研修認定
1.5 単位

■ 第12回泉州地域医療フォーラムのご案内

「泉州地域医療フォーラム」は、大阪大学総合地域医療学寄附講座、市立貝塚病院、りんくう総合医療センターの連携のもと、泉州南部地域の医療水準の向上を目的に開催しています。会の終了後には、情報交換の場をご用意しています。医療関係者の方の参加をお待ちしています。

【日時】6月30日(土) 15:00～17:30 【場所】スターゲイトホテル関西エアポート

【内容】一般講演：**症例検討2例**（血液腫瘍内科／形成外科）

特別講演：**「最近の食道がん治療の動向」**

＜演者＞大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科学 教授 土岐 祐一郎先生

＜座長＞市立貝塚病院 副院長 山田 幸則先生

【地域で活躍する総合診療医の養成】

＜演者＞筑波大学附属病院 総合診療科・総合臨床教育センター 教授 前野 哲博先生

＜座長＞大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 教授 金倉 譲先生

平成 30 年
6月30日
(土)

生涯研修認定
2.5 単位

■ 平成29年度 紹介件数のご報告

地域の医療機関の皆様から1年間で8,155件のご紹介をいただきました。ありがとうございました。

地域医療連携室は地域の医療機関等と密な連携を図り、機能分担を行いながら、患者様に満足いただける質の高い医療を提供することを目的としています。患者様にも医療機関の皆様にも、より信頼していただける市民病院となるよう努力してまいります。今後ともよろしくお申し上げます。

科別	件数	科別	件数
内科	555	小児科	521
消化器内科	1,139	皮膚科	368
神経内科	161	泌尿器科	636
外科・消化器外科	295	産婦人科	1,395
乳腺外科	883	眼科	807
形成外科	295	耳鼻咽喉科	26
整形外科	443	放射線科	631

市民の皆様へ

第66回市立貝塚病院 市民公開講座のご案内

【テーマ】**食べる楽しみを続けるために**

【日時】5月25日(金) 13:30～14:30

【講師】摂食・嚥下障害看護認定看護師 谷口 友恵

【場所】市立貝塚病院 7階講義室 【費用】無料(定員70名 要予約)

【申込・お問い合わせ】 地域医療連携室 ☎ 072-422-5865

※1階総合案内でも予約受付しております

※FAX受付:072-439-6061(お名前・連絡先・申込する講座テーマ・日程を記入のうえ送信)



《手話通訳あり》



平成 30 年
5月25日
(金)

■ 「なすびんネット」接続方式の変更で使いやすく!

「なすびんネット」は、泉州南部地域の医療機関が患者さんの同意のもと診療情報を共有し診療に役立てるネットワークシステムです。

インターネット網への接続方式に、SSL証明環境が加わりました。
登録医療機関の数も増えています!



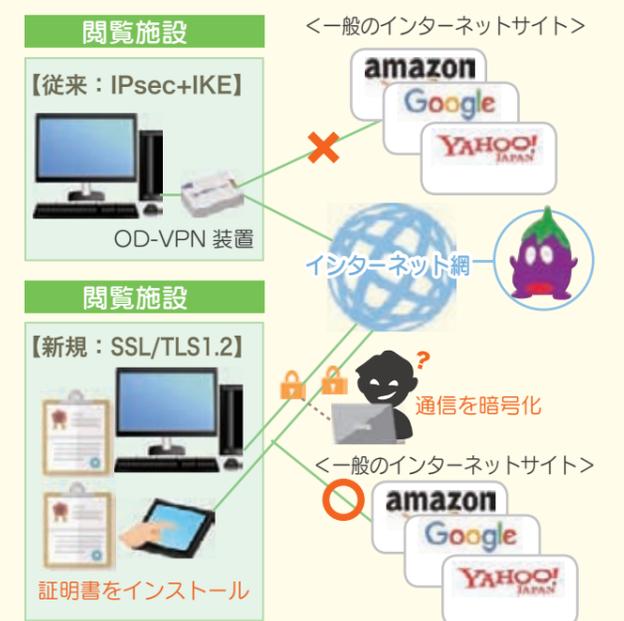
「なすびんネット」の活用には、患者さんのデータ(個人情報)の安全な管理が前提となります。そのため、これまでは専用の装置(OD-VPN装置)を通してインターネット網からデータを閲覧していましたが、閲覧中は一般のインターネットサイトを見れないなどの課題がありました。

そこで昨年末より、厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第5版」に準拠する形で、SSL/TLS1.2のクライアント証明書環境も選べるようになり、随時設定を行っています。「なすびんネット」に参加されていない施設様もこの機会に是非ご検討ください。

【新規方式での閲覧のメリット】

(SSL/TLS1.2クライアント証明書環境)

- なすびんネット使用時にもインターネットが使える
- スマホやタブレットなどモバイルにも対応できる
- 将来的な費用負担が不要
(複数の端末への証明書インストールが容易)



■ 地域医療連携室長就任のご挨拶と地域医療連携体制について



入退院支援センター
地域医療連携室長
看護局 副局長
水上 富美代

今年4月から、地域医療連携室に配属となりました水上と申します。

本誌2～3Pでご紹介した通り、「地域医療連携室」は、新たに設置された「入退院(在宅)支援室」と共に「入退院支援センター」の下に組織されることとなりました。体制は変わりましたが、これまで担当していた各種業務につきましては、引き続き地域医療連携室が行います。

これからも、患者さんが住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう、地域医療連携室一同全力で調整、支援していく所存です。地域医療連携室長としては、まだまだ力不足ではありますが、地域全体に貢献できるよう精一杯努力していきたく思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【地域医療連携室の主な業務】

- 地域医療機関からの患者さんの受け入れ
- 退院時の患者さんの紹介(逆紹介)の推進
- 診療・検査の予約受付
- 医療と介護の連携推進
- 各種医療相談の受付
- 市民医療講演のご案内
- 乳がんキャラバン隊・BLS講習の出前講座の受付 など